



平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年9月24日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社キリン堂

コード番号 2660 URL <http://www.kirindo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 寺西 豊彦

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役

(氏名) 井村 登

TEL 06-6394-0039

四半期報告書提出予定日 平成25年9月26日

配当支払開始予定日

平成25年10月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の連結業績(平成25年2月16日～平成25年8月15日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	51,773	1.3	870	30.2	1,059	25.0	456	△13.9
25年2月期第2四半期	51,126	△0.8	668	△14.8	847	△13.1	531	—

(注)包括利益 26年2月期第2四半期 494百万円 (△9.3%) 25年2月期第2四半期 545百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第2四半期	40.33	—
25年2月期第2四半期	46.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年2月期第2四半期	42,541		11,389		26.5
25年2月期	40,960		11,008		26.6

(参考)自己資本 26年2月期第2四半期 11,275百万円 25年2月期 10,903百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	10.00	—	10.00	20.00
26年2月期	—	10.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年2月16日～平成26年2月15日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	104,900	3.1	2,230	15.9	2,590	15.5	790	△10.5	69.72

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、四半期決算短信(添付資料)P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年2月期2Q	11,332,206 株	25年2月期	11,332,206 株
26年2月期2Q	1,086 株	25年2月期	1,086 株
26年2月期2Q	11,331,120 株	25年2月期2Q	11,331,145 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10
4. 補足情報	12
販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策推進を背景とした円高の是正や株価の上昇により、景況感には改善の動きが見られたものの、雇用・所得環境は依然厳しい状況が続くなど実体経済の回復までには至っておらず、全体として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属するドラッグストア業界では、お客様の低価格志向・節約志向が継続する中、業種・業態を越えた競争の激化も相まって厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、「地域コミュニティの中核となるドラッグストアチェーン」の確立をスローガンに掲げ、商圏内のお客様にとって便利で買いやすい売場づくり、セルフメディケーションの受け皿となる「かかりつけ薬局」としての機能を高め充実させるなど、顧客第一主義の店づくりを推し進めております。さらに、業態間競争に勝ち抜く収益基盤の確立を図るため、経営効率改善に注力しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、引き続き、従業員の意識改革を図るための教育を徹底するとともに、既存店の活性化を推し進めるほか、調剤事業の推進（調剤売上高の拡大）に努めてまいりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<小売事業>

小売事業におきましては、既存店の活性化対策として、当社が5店舗の改装を実施いたしました。また、カウンセリング販売に注力したほか、ポイントカードによるお客様の囲い込みとポイントカード会員様に対する販促策の実施等に努めてまいりました。

さらに、調剤部門の伸びに加え、春先の花粉関連商品や夏場の日焼け止め・飲料等の季節関連商材が好調に推移したことなどから増収となりました。

利益面につきましては、相対的に粗利率の高い調剤部門の売上構成比が前年同期に比べアップしたことなどに加え、コストコントロールに努めた結果、増益となりました。

出退店状況におきましては、ドミナントエリア強化のため、当社がスーパードラッグストアを兵庫県に2店舗を出店いたしましたほか、スーパードラッグストア2店舗、小型店1店舗の計3店舗を閉店いたしました。

以上により、当第2四半期連結会計期間末の当社グループ店舗数は、以下のとおり（合計322店舗／内、海外店舗1店舗）となりました。

	前期末	出店等	閉店	当第2四半期末
スーパードラッグストア (内、調剤薬局併設型)	268 (27)	2 (1)	2 (-)	268 (28)
小型店 (内、調剤薬局併設型) (内、調剤薬局)	51 (5) (19)	- (-) (-)	1 (-) (-)	50 (5) (19)
その他 (内、調剤薬局併設型)	1 (1)	- (-)	- (-)	1 (1)
F C店	2	-	-	2
国内計	322	2	3	321
中国（常州市）	1	-	-	1
海外計	1	-	-	1
合計	323	2	3	322

この結果、小売事業の売上高は515億12百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益は10億43百万円（同18.2%増）となりました。

<その他>

医療コンサルティング事業におきましては、減収となったものの、連結子会社である(株)ソシオンヘルスケアマネージメントが営む在宅医療サポート事業は堅調に推移いたしました。

また、卸売事業におきましては、販売に注力した結果、堅調に推移いたしました。

この結果、その他の売上高は2億60百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益は49百万円（同40.9%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高517億73百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益8億70百万円（同30.2%増）、経常利益は10億59百万円（同25.0%増）となりました。また、四半期純利益は前年同期における一過性の要因（繰越欠損金の利用に伴う節税効果）の反動減により、4億56百万円（同13.9%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ15億80百万円増加し、425億41百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加などによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ11億99百万円増加し、311億51百万円となりました。これは主に、電子記録債務の増加などによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億81百万円増加し、113億89百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加などによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は72億69百万円となり、前連結会計年度末と比較して15億45百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

《営業活動によるキャッシュ・フロー》

営業活動の結果得られた資金は、27億57百万円（前年同期は19億8百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益9億96百万円、減価償却費5億41百万円、仕入債務の増加額12億26百万円の増加要因と、たな卸資産の増加額5億10百万円、法人税等の支払額2億52百万円の減少要因によるものであります。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》

投資活動の結果使用した資金は、3億22百万円（前年同期は6億17百万円の支出）となりました。これは主に、新規出店や改装等に伴う有形固定資産の取得による支出4億58百万円、貸付金の回収による収入2億2百万円によるものであります。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》

財務活動の結果使用した資金は、9億5百万円（前年同期は4億11百万円の収入）となりました。これは主に、配当金の支払額1億13百万円、長期借入金の収支による支出超過7億16百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の連結業績予想につきましては、前回予想（平成25年4月1日に発表した平成26年2月期の連結業績予想）から変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

当社における、調剤薬品の評価方法は、従来、最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっておりましたが、調剤在庫の重要性が増したため、新たな調剤在庫管理システムの導入を行ったことを機に、第1四半期連結会計期間より総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。

3. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月15日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月15日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,500	6,861
受取手形及び売掛金	2,101	2,053
たな卸資産	11,572	12,083
その他	2,473	2,649
貸倒引当金	△49	△49
流動資産合計	21,598	23,597
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,434	6,391
その他（純額）	1,570	1,631
有形固定資産合計	8,004	8,022
無形固定資産		
のれん	1,838	1,630
その他	390	381
無形固定資産合計	2,228	2,011
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,988	3,975
その他	5,532	5,331
貸倒引当金	△392	△397
投資その他の資産合計	9,128	8,909
固定資産合計	19,362	18,944
資産合計	40,960	42,541

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月15日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月15日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,276	13,380
電子記録債務	—	1,120
短期借入金	4,928	4,871
未払法人税等	300	598
賞与引当金	358	385
ポイント引当金	24	22
その他	2,004	2,407
流動負債合計	20,892	22,786
固定負債		
長期借入金	7,011	6,351
資産除去債務	1,011	1,022
その他	1,036	990
固定負債合計	9,059	8,365
負債合計	29,951	31,151
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,237	3,237
資本剰余金	3,223	3,223
利益剰余金	4,389	4,733
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,849	11,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43	58
為替換算調整勘定	10	23
その他の包括利益累計額合計	54	82
少数株主持分	105	114
純資産合計	11,008	11,389
負債純資産合計	40,960	42,541

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月16日 至平成24年8月15日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月16日 至平成25年8月15日)
売上高	51,126	51,773
売上原価	37,674	38,060
売上総利益	13,451	13,713
販売費及び一般管理費		
報酬及び給料手当	5,120	5,283
賞与引当金繰入額	362	379
賃借料	2,731	2,696
その他	4,568	4,482
販売費及び一般管理費合計	12,783	12,842
営業利益	668	870
営業外収益		
受取情報処理料	188	188
受取賃貸料	144	178
その他	130	104
営業外収益合計	463	471
営業外費用		
支払利息	86	64
賃貸費用	138	163
その他	59	54
営業外費用合計	284	282
経常利益	847	1,059
特別利益		
投資有価証券償還益	—	6
特別利益合計	—	6
特別損失		
減損損失	44	59
退職給付制度終了損	113	—
その他	14	9
特別損失合計	173	69
税金等調整前四半期純利益	674	996
法人税、住民税及び事業税	399	545
法人税等調整額	△266	△15
法人税等合計	133	530
少数株主損益調整前四半期純利益	541	466
少数株主利益	10	9
四半期純利益	531	456

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月16日 至平成24年8月15日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月16日 至平成25年8月15日)
少数株主損益調整前四半期純利益	541	466
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	15
為替換算調整勘定	0	12
持分法適用会社に対する持分相当額	—	0
その他の包括利益合計	3	28
四半期包括利益	545	494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	534	484
少数株主に係る四半期包括利益	10	9

（3）【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成24年2月16日 至平成24年8月15日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成25年2月16日 至平成25年8月15日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	674	996
減価償却費	540	541
減損損失	44	59
のれん償却額	232	219
投資有価証券償還損益（△は益）	—	△6
退職給付制度終了損	113	—
貸倒引当金の増減額（△は減少）	1	4
賞与引当金の増減額（△は減少）	31	27
ポイント引当金の増減額（△は減少）	△1	△1
受取利息及び受取配当金	△29	△27
支払利息	86	64
売上債権の増減額（△は増加）	△44	49
たな卸資産の増減額（△は増加）	△142	△510
仕入債務の増減額（△は減少）	1,043	1,226
その他の資産の増減額（△は増加）	225	68
その他の負債の増減額（△は減少）	111	332
その他	2	4
小計	2,891	3,049
利息及び配当金の受取額	28	25
利息の支払額	△87	△64
法人税等の支払額	△924	△252
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,908	2,757
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△631	△458
有形固定資産の売却による収入	—	5
無形固定資産の取得による支出	△3	△23
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	0	—
投資有価証券の償還による収入	—	20
子会社出資金の取得による支出	—	△12
貸付けによる支出	△71	△49
貸付金の回収による収入	167	202
店舗敷金及び保証金の差入による支出	△46	△45
店舗敷金及び保証金の回収による収入	10	43
その他の支出	△42	△5
その他の収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△617	△322

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年2月16日 至 平成24年8月15日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年2月16日 至 平成25年8月15日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	400	—
長期借入れによる収入	2,600	1,600
長期借入金の返済による支出	△2,418	△2,316
リース債務の返済による支出	△57	△72
配当金の支払額	△113	△113
割賦債務の返済による支出	—	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	411	△905
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	15
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,702	1,545
現金及び現金同等物の期首残高	5,774	5,724
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,477	7,269

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成24年2月16日 至 平成24年8月15日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	小売事業				
売上高					
外部顧客への売上高	50,851	274	51,126	—	51,126
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	349	349	△349	—
計	50,851	624	51,475	△349	51,126
セグメント利益	882	34	917	△248	668

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、卸売事業、医療コンサルティング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△248百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、のれんの償却額△232百万円及び営業権の償却額△10百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。その結果、市場価格の著しい下落または収益性の悪化により、回収可能価額が帳簿価額を下回った資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

「小売事業」セグメントの減損損失の計上額は、44百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年2月16日 至 平成25年8月15日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	小売事業				
売上高					
外部顧客への売上高	51,512	260	51,773	—	51,773
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	305	305	△305	—
計	51,512	566	52,079	△305	51,773
セグメント利益	1,043	49	1,092	△222	870

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、卸売事業、医療コンサルティング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△222百万円には、セグメント間取引消去9百万円、のれんの償却額△219百万円及び営業権の償却額△11百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。その結果、市場価格の著しい下落または収益性の悪化により、回収可能価額が帳簿価額を下回った資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

「小売事業」セグメントの減損損失の計上額は、59百万円であります。

4. 補足情報

販売の状況

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年2月16日 至 平成25年8月15日)	対前年同四半期増減率 (%)
小売事業 (百万円)	51,512	1.3
その他 (百万円)	260	△5.1
合計(百万円)	51,773	1.3

(注) 1. セグメント間取引については相殺消去しております。

2. 小売事業における品目別売上高は次のとおりであります。

区分	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年2月16日 至 平成25年8月15日)			
	売上高 (百万円)	対前年同四半期 増減率 (%)	構成比 (%)	
商品売上高	医薬品	9,645	0.5	18.7
	健康食品	2,345	3.0	4.5
	化粧品	13,320	1.1	25.9
	育児用品	1,471	1.4	2.9
	雑貨等	20,481	△0.3	39.8
	計	47,264	0.5	91.8
調剤売上高	4,094	12.1	7.9	
その他	154	2.2	0.3	
合計	51,512	1.3	100.0	

(注) 小売事業の「その他」は、社員販売売上高等であります。